



28.3.21 たかしま☆春の演劇祭 ぶんげい演劇教室+演劇集団つばめ
「テンリー・ハイツ物語」好演！マキシンはどこ？ 安曇川・高島の高校生演劇もブラボー！

28.3.20 春分の日。竹生島に光が降り注ぐ光景に出会えました。真後ろは伊吹山です。（今津浜にて）

湖西線、魅力アップへ

もっと活性化事業を

北陸新幹線敦賀以西延伸による経営分離にならないように、湖西線の魅力アップが必要です。

平成18年、滋賀県と地元市町村で総額74億円も負担し、琵琶湖環状運行が実現しました。

高島も2億3千万円余を負担しています。誘客事業をもっと戦略的に展開して湖西線を活性化する必要があります。県の積極的な観光振興政策を望みます。

三日月大造知事



経営分離されないように関係機関に求めています。

日本遺産で観光プログラムを促進し、ビワイチや高島トレイル、マリンスポーツ等スポーツツーリズムに取り組みたい。

海東 和邇折り返し工事は、経営分離のためではないですか。

知事 比良の風対策を主眼にした安全運行の合理性からであり、そのようには聞いていません。

「びわ湖七つ星」周遊させよう

海東 昨今、空前の鉄道ブームで、JR西日本でも豪華「トワイライトエクスプレス瑞風」が建造中です。

三日月知事は電車の運転免許



東北新幹線 最新車両 こまち
Photo by K.Sasaki

をお持ちで、全国で最も鉄道に詳しい知事です。JR九州の「ななつ星」やタンゴ鉄道の「くろまつ・あかまつ」は地域を元気にしています。知事のキヤリアを活かす観光特別列車「びわ湖七つ星」の建造、周遊運行を提案します。

知事 瑞風の誘致に努力します。電車の建造は今後の課題ですが、湖西線は琵琶湖を一望できる利点を生かし、沿線市町・JRと対話を重ね、次のステージに積極的に取り組んで参ります。

後日談

忍野電車の草津線、SL・D51の北陸線と運行計画があります。国体のPRに主会場となる彦根の「彦ちゃん」列車を提案しましたが、湖西線も地元主導の積極的な取り組みが必要です。関空特急「はるか」を近江今津まで延伸するよう要望中です。

予算委員会での質疑

下水道負担金の格差是正について

海東 滋賀県公共下水道の市町から県に支払う負担金の汚水1㎡単価が2倍以上の格差となっています。（湖南中部@48.5円、高島98.7円、湖西66.6円、東北部60.4円）。第1の受益者は琵琶湖であり、県民が等しく負担して琵琶湖を守るという考え方に変えるべきと思うがどうか。

知事 心情はよく理解できます。格差は一定やむを得ず、受益者負担と独立採算の原則は合理的な方法だと思うが、今後あり方を検討し次の時代に備えていく必要があるので、議会等で御議論いただきご指導賜りたい。

アレルギー対応給食へ

海東 給食は教育の一環でありながら、アレルギー対応には市町の格差が大きく、保護者の負担も大変です。現場で頑張っている栄養職員は県職員ですが、現場の給食センターの設備と人員配置は市町の管轄ですので、協力が必要です。県が呼びかけてアレルギー対応を進めていただきたい。

教育長 アレルギー対応は大変重要であるものの、市町によって違いがあります。東京都で給食後に強いアレルギー（アナフィラキシーショック）で生徒が亡くなり、全ての市町でアレルギー対策室の設置を進めるよう、給食センターの新増改築が国の助成対象となりました。

4月当初の市町主管課長会議などで周知・指導すると共に、栄養職員等の研修も実施して参ります。



親身な原発の安全対策を

海東 高浜原発の再稼働をうけ、安全対策の向上と避難ルート整備が緊急に実行される必要があります。

40年超の老朽化と、ウランより危険なプルトニウムを混ぜたMOX燃料は心配が消えません。



知事 県はしっかりとした監視体制をとっており、国や原子力事業者には安全対策の徹底と不安感軽減を求め、再稼働を容認できる状況にはないと伝えていきます。

部活動活発化へ提言



部活動は教育の一環ですが、指導体制には理想と現実の開きがあり、

野球やサッカー等では、より高みを求める生徒は地域クラブチームを選ぶ傾向です。また、指導者に恵まれない部活の生徒のケアもできていません。

現場の努力を強いる前に仕組



河原恵教育長 学校部活動と地域スポーツクラブが連携・

両立をはかり、「選手の育成・強化」「指導体制の充実」「拠点の構築と環境の整備」の3つの柱で取り組んでいきます。

平成28年度予算について

当初予算案の規模

	予算額	対前年度当初予算比	
		金額	比率
一般会計	5,446億円	+ 60億円	+ 1.1%
特別会計	2,261億円	+ 104億円	+ 4.8%
企業会計	374億円	▲ 19億円	▲ 5.0%

※企業会計は、収益的支出および資本的支出の合計を示しています。

2・3月議会では新年度の事業と予算が審議・採決されます。この予算にのっとり平成28年4月からの事業がスタートしますので最重要な定例会といえます。

平成28年度予算は、一般会計5446億円、特別会計2261億円、企業会計374億円で、総額8,081億円が審議され、賛成多数で可決され成立しました。借金にあたる県債残高は1兆800億円余です。

かつては「均衡ある県土の発展」と謳っていましたが、「選択と集中」という名の下に、県の施設、機能が人口集積地へ集中し、余計に高島、長浜の空洞化を加速させています。あらゆる機会を捉え、高島地域の存在感を高めていけるように働きかけます。